

灰高天神

菊池市出田地区にあり、樹齢500年ともいわれています。毎年12月14日に灰高さん祭りが行われています。永年の風雪や台風などにより、樹勢の衰えが見られましたが、平成20年から21年にかけて樹木医による処置を行い回復しました。現在は区民の憩いの場として親しまれています。天神として祭られています。詳しい歴史は地域でもよく知られていません。



認定番号第ふるさと H24-32
推薦者 下出田区

岩本神楽

旭志岩本地区の菅原神社に伝承されている肥後神楽系に属する神楽です。明治4年、村民の



認定番号第特別 H24-1 号
推薦者 岩本区

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

絵画作品展（油絵・水彩画）彩りの会

期 間 9月2日(火)～15日(月/祝)

会員20人で、絵画、油絵水彩画を趣味として、毎週講師の指導を受けながら描いた作品を展示します。

92歳 今が青春 瀬口栄子

期 間 9月17日(水)～28日(日)

92歳、今が人生青春真っただ中です。83歳のとき押し花に出会い、今は絵手紙を学んでいます。拙い絵ですが皆さん見に来てください。

菊池「穴川」人と風景 田中栄一写真展

期 間 9月30日(火)～10月13日(月/祝)

穴川の人と風景を撮影した写真を展示します。皆さんぜひお越しください。

まちかど資料館・企画展示室「菊池の古墳展」

期 間 8月1日(金)～11月30日(日)

菊池市内十数カ所にのぼる古墳群は、4世紀から7世紀後半、古墳時代から白鳳時代にかけての約400年間に造られました。時代の変遷がなす、さまざまな古墳群の摩訶不思議な世界を紐解いていきます。

※休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

第7回 菊池市合同絵画展

期 間 9月2日(火)～7日(日)

菊池市文化協会4支部の絵を描く愛好者34人が一堂に会し、それぞれの力作を展示します。

瀬川富紀男

期 間 9月16日(火)～21日(日)

菊池高校を卒業して47年。東京芸大と大学院で油絵を学ぶ。文化庁研修員としてパリに留学、独立展を中心に毎年作品を発表して今日に至る。コンクール受賞多数。初めての故郷での個展です。ぜひご覧ください。

「写真と能面」展

期 間 9月23日(火/祝)～10月5日(日)

第3回上野忠昭写真展と能面を展示します。

菊池温泉湧出60周年展

期 間 ～10月30日(木)

開館時間 午前9時～午後6時

※期間中の閉館日はありません。



ふるさと緑の便り 菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先

さくちふるさと水源交流館
☎0968(27)0102

井手を活用「イデベンチャー」

「井手」とは、水田に水を引き入れるために川の流れをせき止めている所、用水路のことです。元禄14年（1701年）に完成した原井手は、大場堰から水源地区、河原地区の水田を潤し、総延長は11^キにおよびます。

この原井手をカヌーで下るアドベンチャー体験が「イデベンチャー」。熊本はもとより、九州で初の井手下り体験です。

水源地区にある「さくちふるさと水源交流館」近くの井手をスタートとするコースは、原井手管理委員会の協力の下に今年整備。自然を感じながら、橋の下やトンネルをくぐるワクワク体験もあり！井手の流れに乗ってゆったりと流れる時間を楽しめます。

土日を中心に定期体験会（要予約・有料）を実施中。700^坪のショートコースから、約4^キのアドベンチャーコースなど3コースがあります。（団体での申し込みはショートコースのみ）詳しくはお問い合わせください。



イデベンチャー

「いのちの証を見極める」 第10回ハンセン病市民学会in草津に参加して、菊池市地域人権教育指導員（菊池恵楓園説明ボランティア）稲田京子

セン病違憲国賠訴訟で中心的な役割を果たした劔雄^{ケンユウ}さんがいっしょなので、直接お話を聞いてみたいと思い参加しました。

今回のテーマ「いのちの証を見極める」ということもあり、重監房跡地と4月完成した重監房資料館に自分の身を置きました。重監房資料館には、重監房の一部が再現されていました。収監された一人一人の収監理由が記載されているのを丁寧に読みました。一人一人の無念さと人権侵害に対する怒りに共感し、いのち・人権がいかに重いかを深く感じました。

1939年～1947年に重監房に収監された延べ93人の中の一入、患者作業の洗濯場主任をされていた山田さんの事例に驚きました。何年も使った用をなさなかった彼らのゴム長靴での洗濯は麻痺した足が濡れて炎症を起こすので、彼は洗濯係の人数分の新しいゴム長靴を要求しました。見学者や医学研修生が新しいゴム長靴を履いているにもかかわらず、洗濯係に支給されないということだったので抗議のため仕事を休んだら「騒擾罪」で4日間収監され、出

獄した直後病死されています。こんな理由で収監されたのかと驚くばかりでした。当時、入所者の人権が無視されていたことが痛いほど分かります。零下20度極寒の監房の中は、それだけでも死に至らしめるということです。一人一人には、家族・親戚・友人がいたでしょうからその数だけ悲しみや怒りがあつたでしょう。

集会終了日、病床にあつた劔さんはこの集會を見届けるように亡くなられました。いのち尽きるまで反差別の熱い思いで生き抜かれた姿に圧倒されました。「国は家族から引き離しふるさとを奪った名前を奪い未来まで奪った人権とは侵しても侵されてもならぬもの」詩人でもあつた劔さんの「いのちの証」の一節です。

「人を人として見てほしかった」と言われる当たり前のことは、過去の問題ではなく今日これからのことでもあります。

今、部落問題をはじめとして、子どもや女性に対する差別など、深刻な人権問題がまだ残されています。差別をなくすために共に考え行動していきましょう。

韓国発見シリーズ ③9 キム ほんにちは金です



最近韓国で人気の「樹木葬」

韓国は土葬を好む文化のため、韓国中が墓地化するかもしれないという記事を以前、書いたことがある。国土の1%（940平方^キ）が墓地で、毎年東京ドーム62個分（2・9平方^キ）の墓地が新しくできていることを考慮すると、これは見過ごせない問題だ。そんななか、「樹木葬」という新しい埋葬方法が話題になっている。樹木葬は、墳墓造成や納骨堂設置などの経済的負担が少ないことからヨーロッパなどで広がっており、最近韓国でも人気を呼んでいるという。

ソウル近隣の楊平郡楊東面に、山林庁が造成し山林組合中央会が管理する樹木葬林がある。そこには美しい景色と樹齢40～50年ほどの松や、朝鮮五葉、モンゴリナラなどが多く植えられている。樹木葬はこのような木の周辺に火葬した遺骨を葬ることをいう。自然と共存するという意味らしい。2009年の造成以後、30^畝の面積に3227人の樹木葬が行われた。

一般的に樹齢40～50年程度の松が家族樹の場合、使用料と管理費を含め15年間の費用が232万5千ウォン（約23万円）となり、その間は1家族に付き最大10人まで可能とされる。木には名前札を付けて家族が自由に訪れることができ、山林組合が木と森全体を持続的に管理してくれる。



樹木葬に使われる木として松や朝鮮松があるのは興味深い。韓国人が最も好きな木であり、何より長生きする木として知られている。世界で一番長生きの木も、アメリカ西部ホワイト山地にある松の木で、樹齢が約4800年だという（メトセラツリーともいう。これは聖書中の創世記に出てくるメトセラ（969歳）という人物で一番長生きした人から取った名前）。樹木葬は、樹木のように長生きしたい人間の希望と、残った家族には経済的負担が少なく管理も比較的簡単な方法だ。また国土の墓地拡大に悩む韓国において、この新しい埋葬方法が将来の国土面積を決める問題だと思うと、定着化するかどうか大変気になる。